

平成 28 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、日本付近は弱い冬型の気圧配置となりましたが、北日本では気圧の谷の影響を受けやすく、北日本日本海側では旬間日照時間が平年比 45% となり、1 月上旬としては 1961 年の統計開始以来最も少なくなりました。一方、北・東日本と西日本日本海側の降水量は少なく、東日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多くなりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、先島諸島では大雨となったところがありました。また、北からの寒気の影響が小さく、気温は全国的に高く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高くなりました。特に、南からの暖かい空気が流れ込んだ沖縄地方では、夏日となったところもありました。

中旬は、本州の南岸や本州付近を低気圧が通過したため、全国的に数日の周期で寒気が流れ込み、降水量は全国的に多くなりました。特に、18 日から 19 日にかけては、低気圧が本州付近を発達しながら通過し、19 日には北海道の東海上で発達して冬型の気圧配置が強まりました。このため、太平洋側でも所々で大雪となりました。また、北海道や北日本から西日本の日本海側の広い範囲で暴風雪となりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で旬を通して曇りや雨の日が続き、旬間日照時間はかなり少なく、旬降水量は平年比 272% となり 1 月中旬としては 1961 年の統計開始以来最も多い記録を更新しました。

下旬は、旬の中頃までは冬型の気圧配置が強く、特に 24 日から 25 日にかけては、強い寒気が流れ込みました。このため、日本海側や西日本太平洋側の所々で大雪となり、24 日は長崎（長崎県）で積雪の深さが 17cm となり、1906 年の統計開始以来最も大きい記録を更新しました。沖縄・奄美では名瀬（鹿児島県）で 1901 年 2 月 12 日以来 115 年ぶりに雪を、久米島（沖縄県）で 1977 年 2 月 17 日以来 39 年ぶりにみぞれを、名護（沖縄県）で観測史上初めてみぞれをそれぞれ観測しました。また、25 日前後に東・西日本と沖縄・奄美のアメダスを含む 74 地点で統計開始以来の日最低気温の低い記録を更新し、3 地点でタイ記録となりました。

月平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本で多くなりました。月間日照時間は、東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美でかなり少なくなりました。降雪の深さ月合計は、西日本日本海側でかなり多くなった一方、北日本日本海側でかなり少なくなりました。

【1 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 84% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 82% でした。各地方の適中率では、明日予報については、九州南部地方で 12 ポイント低くなり、沖縄地方で 7 ポイント高くなりました。明後日予報では、東海地方と沖縄地方で 6~7 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.2 となり、全ての地方で例年値以下となり、特に北海道地方で例年値より 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4 となり、全ての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3 月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して、数日の周期で天気が変わることが多く、気温の変動が大きくなります。また、低気圧が急速に発達して通る際の「春の嵐」には突風や強風に注意が必要です。最新の天気や気温の予報を利用して、災害の防止や健康管理等に役立てて下さい。